

銀の皿

—説教要旨—「皆勤賞」



私は8歳の時から教会学校に通うようになり、そこから夢中になって教会に通うようになりました。そこでもらえるお菓子やプレゼントを目当てにしていたからです。これは最初のクリスマス会の時の話です。先生がこのように私に言いました「銀ちゃんはこの年一回も(教会学校)休まなかったから皆勤賞です!!おめでとう!!」そうして貰った大きなプレゼント、さっそく開けてみると、これでもかと思うくらい詰め込まれたお菓子とおもちゃが入っていました。

実は私が教会に行くようになったのは年の初めの1月からではなく5月からでした。なので実際は皆勤賞ではありません。でも先生方は一度も休まなかったその努力は皆勤賞に値する、そう言ってそれを形に現わして下さったのでした。この話は今の私にとっても宝物です。当時の私の考えは「教会に行けば良いものがもらえる」でしたが、教会学校の先生の伝えたかったことは「誰でも心を尽くして神に答えるものは祝福が待っている」という事でした。それは教会学校生活10年の中で得た恵みであり私の宝物です。

実はこのレッスンは今でも続いています。そして全ての人がこのレッスンに当てはまります。聖書の神は「惜しめない神様」です。なぜなら愛するたった一人の御子を私達を救う為に与えて下さったからです。私達が従順になって神様のお導きに従う時、祝福ある人生が待っています。私達がする事はいつだって神様の約束に飛び込んでいくだけです。その時私達が想像していたことより、はるかに勝った神の恵を体験します。共に主を仰いで前進してまいりましょう。

ピリピ 2:13 神は、みこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださるのです。2:14 すべてのことを、つぶやかず、疑わずに行いなさい。